

○平成30年度決算の概要

(1) 収支計算書の状況

① 資金収支計算書

資金収支計算書は、当年度の学園の全ての資金の動きを示したものです。

資金収入の合計は予算と比較して53百万円上回り13,419百万円となりました。一方、人件費・教育研究経費・管理経費などの資金支出は、予算を121百万円下回り10,410百万円となりました。なお、予備費のうち91百万円を人件費支出・教育研究経費支出等の予算に充当しています。その結果、翌年度への繰越支払資金は、予算を175百万円上回り3,008百万円となりました。

② 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は、当年度の資金の動きを3つの活動に分類し、活動区分ごとに資金の流れを示したものです。

「教育活動」では資金収入が9,635百万円、資金支出が9,084百万円、調整勘定等が136百万円となり資金収支差額が687百万円になりました。「施設整備等活動」では資金収入が1,268百万円、資金支出が1,302百万円、調整勘定等が△121百万円となり資金収支差額が△154百万円になりました。「その他の活動」では資金収入が275百万円、資金支出が266百万円となり資金収支差額が9百万円になりました。その結果、当年度の支払資金が542百万円増加し、翌年度繰越支払資金は3,008百万円となりました。

③ 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、事業活動ごとの収入および支出、基本金組入後の収支の均衡状態を明らかにすることにより、学園の当年度における経営状態を示したものです。

「教育活動収支」では収支差額が予算を72百万円上回り、△901百万円となりました。一方、「教育活動外収支」は収支差額が予算を2百万円上回り、139百万円となりました。なお、予備費のうち99百万円を人件費・教育研究経費・管理経費の予算に充当しています。その結果、経常収支差額は予算を74百万円上回り、△762百万円となりました。

「特別収支」では収支差額が予算を3百万円上回り248百万円となりました。なお、予備費のうち15百万円を資産処分差額の予算に充当しています。これらの結果、基本金組入前の当年度収支差額が△514百万円となり、基本金組入額916百万円を計上後の当年度収支差額は△1,430百万円となりました。

また、当年度収支差額△1,430百万円に前年度から繰越された収支差額△15,889百万円、基本金取崩額124百万円を加算した結果、翌年度繰越収支差額は17,196百万円の支出超過となりました。

(2) 貸借対照表の状況

貸借対照表は、当年度末における学園の財政状態を示したものです。

「資産の部合計」は79,608百万円で、前年度末に比較し498百万円の減少となりました。有形固定資産が230百万円減少、特定資産が945百万円減少、流動資産が677百万円増加したことによるものです。「負債の部合計」は4,186百万円で、前年度末に比較し15百万円の増加となりました。「純資産の部合計」は基本金が792百万円増加、繰越収支差額が1,306百万円減少し、前年度末に比較し514百万円の減少となりました。その結果、翌年度繰越収支差額が17,196百万円の支出超過となりました。